

コネクタを活用して
翻訳効率をアップ



RWS

Trados

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| はじめに..... | 3 |
| コネクタの使用例..... | 4 |
| コネクタの種類..... | 6 |
| コネクタの開発アプローチ | 8 |
| RWS Language Cloud API | 9 |
| RWS Language Cloud API の使い方 | 10 |
| 将来のコネクタ | 11 |



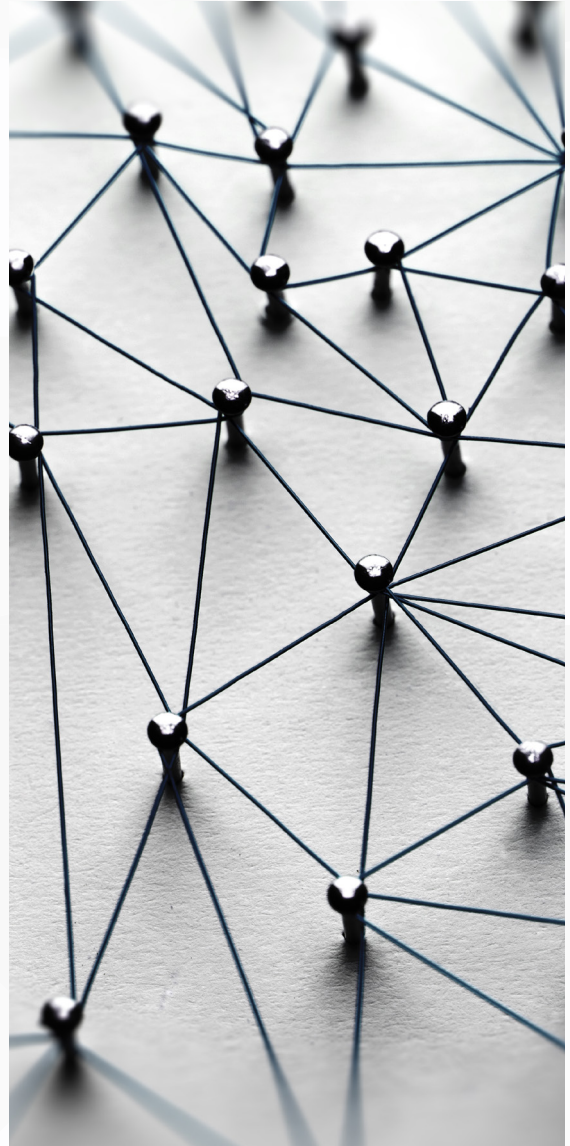
はじめに

多くの企業はさまざまなテクノロジーを利用して、コンテンツの作成や配信を行っています。こうしたコンテンツを世界中の顧客に向けて翻訳するには、より効率的でコスト効果の高い自動化されたソリューションが必要になります。

分断されたシステムを使用していると、コンテンツを手作業で翻訳に出すため時間がかかり、市場投入期間や顧客満足度に悪影響を及ぼすことがあります。コンテンツ管理システムと翻訳管理システムをコネクタで接続すれば、コンテンツの翻訳プロセスが一気に加速され、より俊敏かつ効率的になります。

企業は現在、ビジネス全体で作成、管理、発行するあらゆるコンテンツのために多数のツールやプラットフォームを導入する傾向にあります。従来のビジネス促進要因、部門別の購買決定、レガシーシステムはすべて、多数のシステムの導入の原因となっており、企業はそれぞれ技術アーキテクチャを独自に組み合わせて利用しています。

このため、RWS はお客様のニーズに応じて 50 以上のさまざまなコネクタを提供しています。ビジネス全体でシステムを連携させ、e コマースと製品情報管理システム、ウェブサイト、ユーザードキュメント、サポートチケット、ライブチャットのコンテンツをすべて RWS の翻訳サービスや翻訳テクノロジーに接続します。これにより、お客様はビジネス全体の翻訳管理を自動化できます。

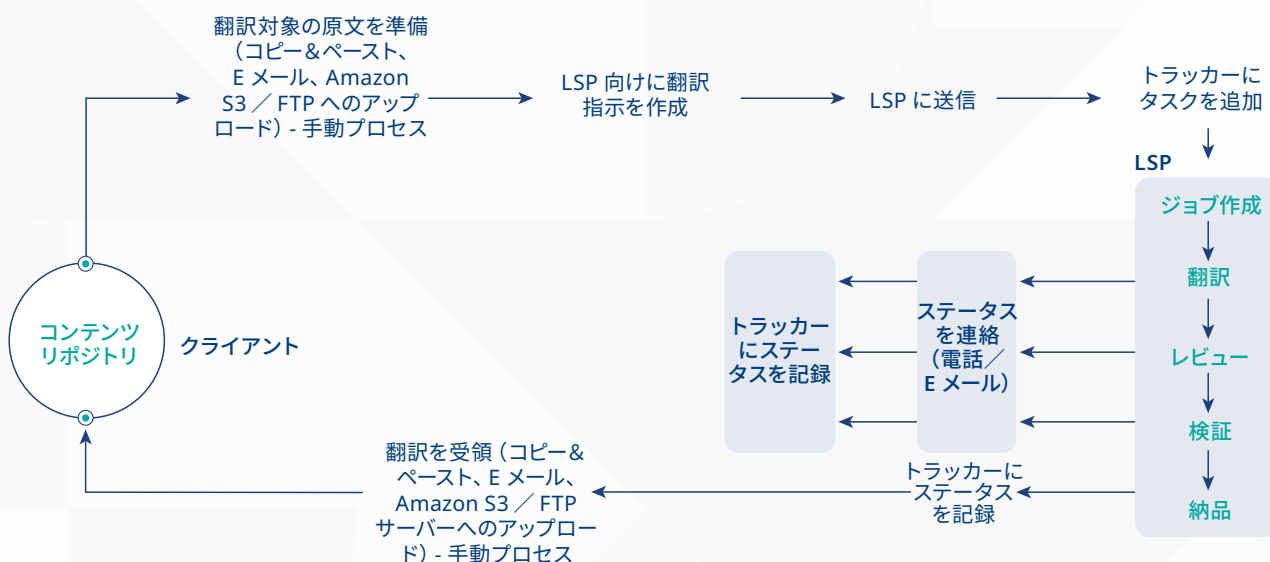


コネクタの使用例

コネクタは、手作業を減らし、効率を高めるためのツールです。コネクタを使用しない場合、毎日の作業に膨大な手間がかかることになります。コンテンツの制作と管理を行っている場所（一般にコンテンツ管理システム（CMS）、製品情報管理（PIM）システム、コンテンツリポジトリなど）からコンテンツを選択し、翻訳担当の社内チームまたは翻訳会社（LSP）へ送信する作業を、すべて手動で行わなければならないからです。

作業内容は原文によって異なりますが、ファイルのエクスポート、翻訳可能なドキュメントへの手作業によるコンテンツのコピー＆ペースト、Eメールの送信、ファイル転送プロトコル(FTP)サーバー／Amazon S3などのクラウドストレージ／その他のリポジトリへのファイルのアップロードなどが挙げられます。コンテンツを送信したら、指示を作成してLSPにハンドオフし、タスクをスプレッドシートで管理します。コンテンツが翻訳されると、このプロセス全体を逆戻りして元のシステムに戻します。

コネクタなしのワークフロー：手動プロセス



こうした手動のステップでは、プロセスで余計な手間が発生します。ユーザーはさまざまなツールやUIを使用する必要に迫られ、社員は手作業の繰り返しで貴重な時間を奪われて不満を抱くようになります。大量の手作業に依存しているプロセスでは、エラーや遅れが生じる危険性が常にあります。

以下はその例です。

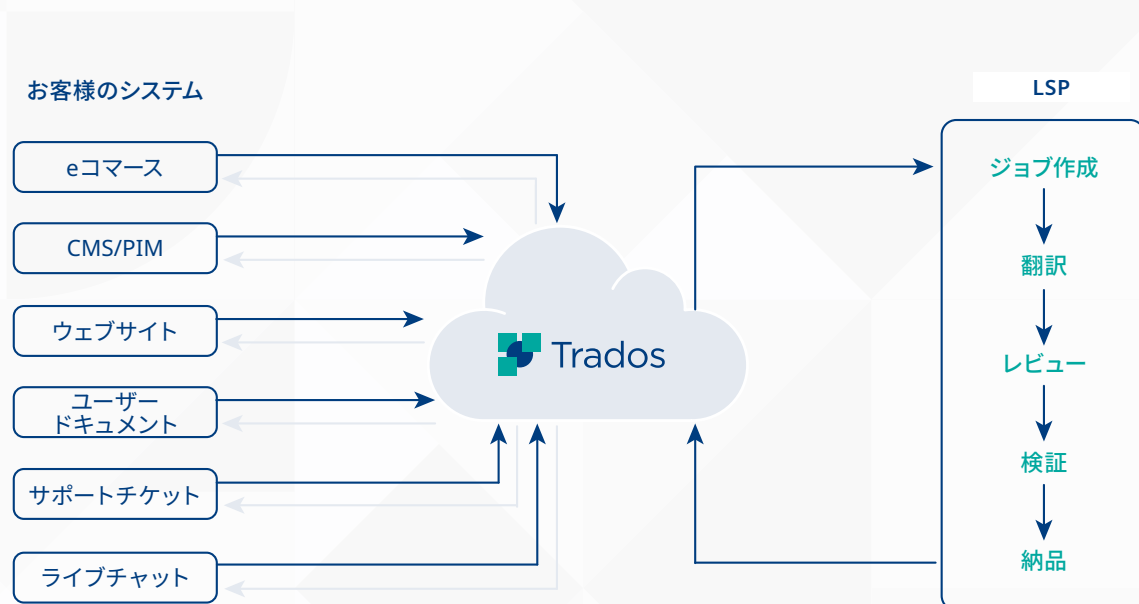
- LSP へのファイルのハンドオフに漏れがある。
- ファイルのエラーにより、すべての言語で修正が必要になる。
- レビューアの1人がレビューを適切に完了していない。
- 翻訳の遅延や漏れにより、海外市場での製品展開が遅れたり、インターネット検索結果に影響が生じる。



このような手間をなくし、ユーザーがより重要なタスクに集中できるようにするため、RWS はインテリジェントな翻訳プラットフォーム、RWS Language Cloud 用のコネクタを継続的に開発しています。このプラットフォームは、RWS が提供するすべての次世代 Trados 製品の高度な翻訳管理機能をサポートします。RWS が開発するコネクタは、サードパーティ製品に組み込んだり、既存の翻訳ソリューションとすぐに統合できるように開発されています。

これらのコネクタを使用することで、ユーザーはコンテンツをあらゆる管理場所から選択して、翻訳ジョブを簡単に作成できるようになります。続いて、コンテンツは自動的に Trados へ渡され、翻訳・管理されます。翻訳プロセスが完了したら、翻訳は自動的に原文コンテンツリポジトリに返されます。

多種多様なシステムで翻訳用コネクタを活用

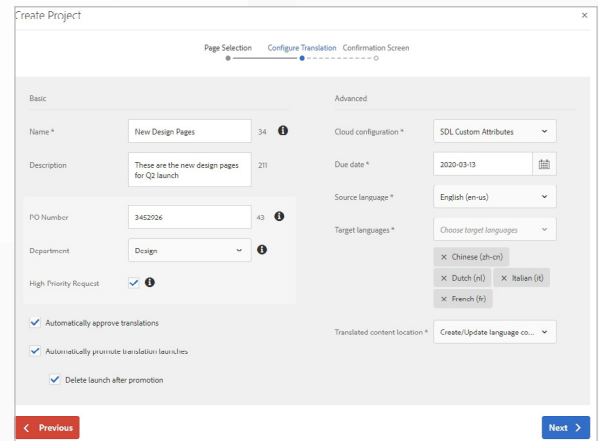


コネクタの種類

RWSは次の5種類のコネクタを提供しています。

1 組み込みコネクタ

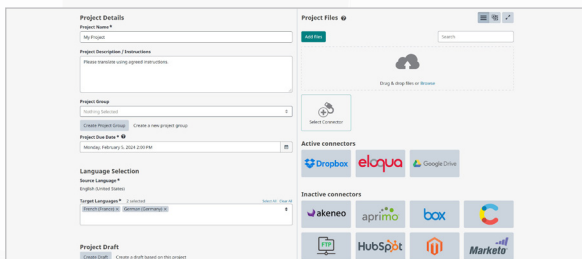
組み込みコネクタは、お客様のコンテンツシステムに搭載できる機能豊富なソリューションです。ユーザーは軽量の翻訳プロジェクト管理機能を利用して、引き続き快適なコンテンツ環境で作業できます。お客様の既存テクノロジーに組み込むことで、ファイルやデータがコンテンツシステムから Trados にプッシュされます。この統合により、ユーザーはコンテンツシステムから直接、翻訳をより詳細に管理し、多言語コンテンツをさらに容易に作成・管理できるようになります。



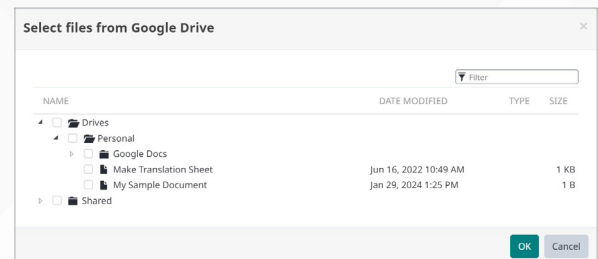
Adobe Experience Manager 内で簡単な項目をいくつか入力し、RWS の翻訳管理システムのいずれかに自動送信することで、翻訳プロジェクトを簡単に作成できます。

2 内蔵コネクタ

内蔵コネクタは事前にインストールされており、Trados のコネクタフレームワークの一部として提供されます。ユーザーは、Trados ソリューションで翻訳プロジェクトを作成し、翻訳対象のコンテンツのソースとしてコンテンツリポジトリを選択できます。コンテンツとデータはコンテンツリポジトリから Trados に「プル」されます。翻訳が完了すると、コンテンツリポジトリへ直接アップロードできます。



プロジェクトを作成する際、Google Drive などの内蔵コネクタがすでに利用可能になっています。コネクタは必要に応じて追加作成し、設定できます。



関連するコネクタを設定すると、Google Drive のファイルなどが表示され、翻訳プロジェクト用に簡単に選択できるようになります。

3 標準コネクタ

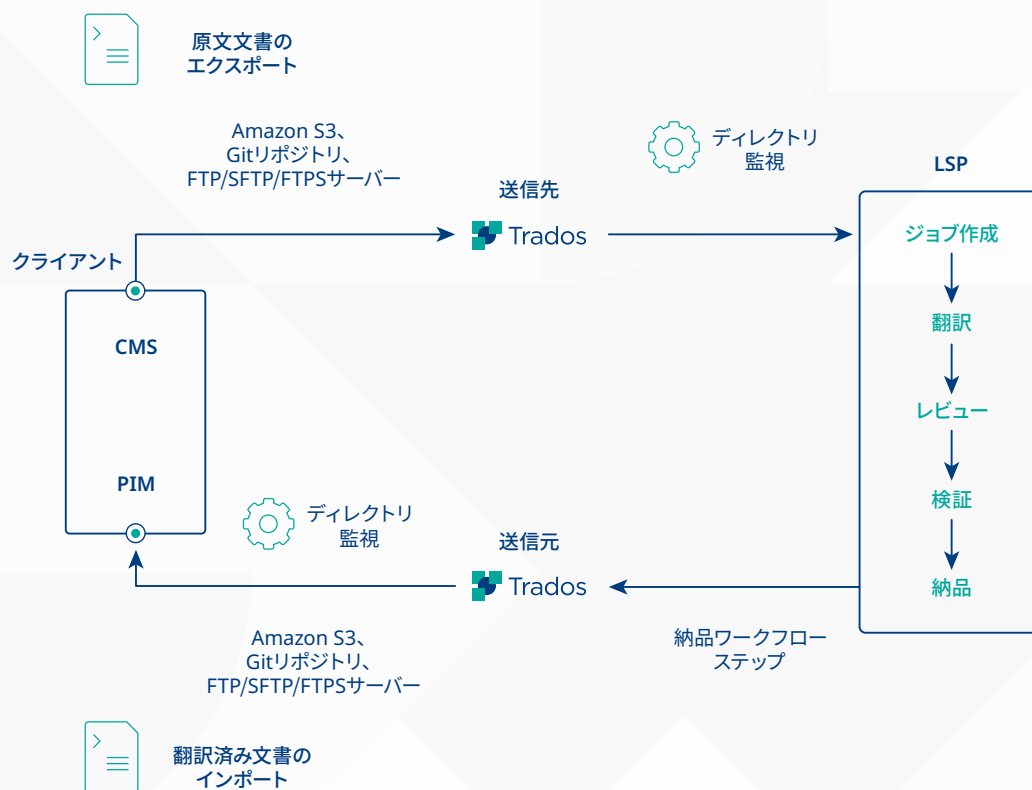
標準コネクタは導入しやすく、Trados のコネクタフレームワークの一部としてインストールされます。インストール後は、内蔵コネクタと同じように機能します。

4 スマートフォルダ

スマートフォルダは、「ホットフォルダ」とも呼ばれる疎結合オプションを提供します。このソリューションでは、お客様のコンテンツリポジトリから、Amazon S3、Git リポジトリ、FTP / SFTP / FTPS サーバーなどのホストされたソリューションに原文ファイルを送信する必要があります。これは手動または自動スクリプトで行うことができます。

Trados では、この「in」フォルダを監視し、自動的にコンテンツをコピーして翻訳プロジェクトを作成します。翻訳が完了すると、多言語コンテンツが自動的に「out」フォルダに戻されます。お客様のリポジトリでは、最終コンテンツの監視とインポートも手動または自動スクリプトによって行われます。

自動化コネクタソリューションの一般的なコンテンツフロー



5 スマートコネクタ

スマートコネクタにより、ユーザーは、統合プラットフォームにコンテンツシステムが存在する限り、最小限の開発作業（コードレス接続）で、コンテンツシステムと Trados を統合できます。スマートコネクタを統合プラットフォームでアクティブ化すると、ワークフローシナリオを作成することで統合プラットフォームの数百ものコンテンツシステムに Trados システムを接続でき、コンテンツシステムから Trados に翻訳対象コンテンツを送信するプロセスを自動化することができます。RWS では、このシナリオ作成サービスをソリューションの一部として提供しています。

コネクタの開発アプローチ

RWS は、テクノロジーに対して API 重視のアプローチを採用しています。このアプローチでは、ユーザーインターフェイスや社内プラットフォームのすべての機能を API (Application Programming Interface) で利用可能なため、開発者は翻訳ジョブの作成、ステータスの問い合わせ、翻訳の納品を行うことができます。

当社は、独自のコネクタを作成したいお客様やサードパーティツールプロバイダもサポートしています。以下に対応する場合、コネクタのカスタマイズが必要になることがあります。

- お客様固有の要件
- 専用のコンテンツリポジトリ
- 旧式のコンテンツ管理システム

このような場合、お客様、システムインテグレータ (SI)、ツールプロバイダなどに所属する開発チームは、RWS のテクノロジーとの独自の統合を保持しています。当社は、開発作業を支援するために、関連ドキュメントや専門知識を持つエキスパート (SME) のサポートを提供しています。

また、お客様、SI / ツールプロバイダ、RWS のエンジニアで構成される混合チームによる開発アプローチも提供しています。お客様やツールプロバイダは一般にツールのデータ、UI、開発環境について十分理解しており、RWS は翻訳用のコネクタを開発するための API とベストプラクティスを理解しているため、このアプローチは特に有効です。

極めて複雑な環境や要件に対しては、RWS は上級 SME によるサポートを提供し、お客様およびプロバイダと連携して個々のコンテンツエコシステムに合わせて統合ソリューションを設計します。たとえば、異種システム内のコンテンツの特定、ベストプラクティスの推奨、データフローやプロセスに合わせた設計などを行います。



RWS Language Cloud API

RWS Language Cloud は、オープン REST API を提供しています。この機能豊富な API では、ダッシュボードの作成、翻訳プロジェクトの詳細、タスクのステータスなど多くの拡張機能を実行できます。翻訳プロジェクトの作成時に、特定のオプション、ファイル、訳文言語を選択する必要があります。

API のユーザーは、次の 3 種類です。

- RWS Language Cloud を基盤とする製品 (Trados Enterprise など) を開発する RWS の社内開発チームやパートナー
- 独自のプラットフォームにローカリゼーション機能や RWS への直接リンクを組み込みたい外部コンテンツプラットフォーム所有者
- カスタムソリューション、または特定の課題の解決を希望するお客様やそのパートナー

開発者は、API ドキュメントを参照できるほか、あらゆる機能を実行可能なプラットフォームサンドボックス内で作業できます。RWS は、開発者へのサポートとして、さまざまなユースケース要件を満たすためのベストプラクティス、サンプルアプリ、ガイダンスをご用意しています。



RWS Language Cloud APIの使い方

プロジェクトの作成から完了までのライフサイクル全体をたどり、RWS の API に関する理解を深めましょう。



ステップ 1：認証

API へのすべてのリクエストでアクセストークンが必要です。最も一般的なトークン取得方法は、エンドポイントにログインすることです。



ステップ 2：プロジェクトを作成する

プロジェクトを作成する前に、使用可能なプロジェクトテンプレートを確認してください。その後、プロジェクトを作成し、ファイルをアップロードして、プロジェクトを開始します。プロジェクトテンプレートは、言語ペアや、ファイル形式、カスタムフィールドを選択できる点が特に便利です。



ステップ 3：プロジェクトやタスクを追跡する

プロジェクトを作成したら、エンドポイントにリクエストすることで、プロジェクトとそのサブタスクを追跡できます。その他のプロジェクトやタスク（以前に完了したプロジェクトや特定のステータスのプロジェクト/タスクなど）に関する情報は、異なるエンドポイントオプションを使用することで取得できます。

また、API で幅広く利用できる Webhook を使用し、プロジェクトやタスクが特定のステータスに達したときに通知を受け取ることもできます。



ステップ 4：ファイルをダウンロードする

タスクによるワークフロー完了が追跡リクエストに示されたら、プロジェクト内の各ファイルを個別に、またはすべてのファイルをまとめてダウンロードします。



ステップ 5：ファイルを完了としてマークする

すべてのファイルをダウンロードしたら、完了したエンドポイントによりプロジェクトに完了マークが付けられます。

将来のコネクタ

効率的なエンドツーエンドプロセスを構築するため、企業はますます多くのコネクタを必要としています。しかし、接続された多数のシステムから1つのプラットフォームに移行する方が、全体として効率的でコストがかからない場合があります。

市場において統合が進むことで、コネクタの状況も変化しています。Adobeのように、歴史的に異なる製品群（この場合は、Adobe Experience Manager、Marketo、Magento、Workfront など）を所有している企業では、それらをサポートするためにコネクタを求めるようになっていきます。

コネクタは多くのユースケースをサポートする必要があるため、RWS は継続的に各ソリューションをお客様の要件に照らして検討し、強化しています。多くの企業は既存のコンテンツシステムを使用して、従来の方法で翻訳プロジェクトを作成・管理したいと考えています。それ以外の企業に対し、当社ではコンテンツトリガーと AI を組み合わせてゼロタッチの自動プロジェクト作成機能を提供しています。

業界最大手の言語サービス・翻訳テクノロジープロバイダである RWS は、これからもコネクタと統合への投資を継続し、お客様にビジネスの俊敏性と安心感を提供します。



コネクタのリストについては、こちらをご覧ください

trados.com/jp/connectors

RWS について

RWS Holdings plc は、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、AI を活用したテクノロジーと人間の専門知識を組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバルな理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

過去 20 年間にわたり、当社は独自の AI ソリューションを進化させるとともに、お客様による多言語 AI アプリケーションの探求、構築、使用を支援してきました。また、45 件以上の AI 関連特許と 100 件以上の査読論文を保有し、お客様の AI 導入をサポートしてきた経験と専門知識があります。

世界のトップブランド 100 社の 80% 以上、フォーチュン誌の「最も賞賛される企業」20 社の 4 分の 3 以上、さらに大手製薬会社、投資銀行、法律事務所、特許事務所のほぼすべてが当社を利用しています。クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、アフリカ、北南米に広がっています。5 つの大陸に展開した 65 を超えるグローバル拠点から、自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野のお客様にサービスを提供しています。

1958 年に設立された RWS は、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています (RWS.L)。詳細については、www.rws.com/jp をご覧ください。

© 2024 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group* の機密情報および専有情報とみなされます。
* RWS Group とは、RWS Holdings plc およびその関連会社および子会社の代表を意味します。